

今、思うこと

中林 みつ枝
高等看護学科 19 回生

昔から「光陰矢のごとし」と言うように、月日の流れは本当に早いことを実感しております。

今から 47 年前、私は看護師となるため富山県立総合衛生学院に入学しました。それは、小学校時代に体験した兄、父、祖母の相次ぐ死がきっかけでした。近所の人から兄が家で亡くなる時、側で寄り添っている母の手をとり、「ありがとう」と言って亡くなった事を聞き涙しました。また、父は皆に迷惑をかけまいと、病院からの手紙にはいつも元気であると書かれていたことを母より聞き、将来は病んでいる人達のお世話をすることを心に決めました。

あれから瞬くうちに 46 年が経過し、平成 24 年 12 月末に病院を退職しましたが、2 ヶ月後に縁あって富山県立中央病院で医療メディエーター(医療対話仲介者)の職に就きました。長年の看護経験が生かせる職と聞き、少しでも人の役に立てればとのポジティブな考えで引き受けました。

医療メディエーターの役割は、問題の生じた患者さん・家族と医療者の間に入り、対話の場を設けて当事者同士が良好な関係を構築できるよう支援することです。

今、この業務に就き経験して思うこととして、多くの医療者は時間内で行う多忙な業務のためコミュニケーション不足になりがちで、個々の患者さんのニーズに応えられず、医療者への不満・苦情につながっています。患者さんの立場に立ち、感情や思いを受け止めながら、しっかりと共感的に傾聴することで、患者さん自ら気づきを得られ納得していかれるケースが多くあります。大きな声で怒っている患者さんに対しては、先に恐怖感を覚えがちですが、怒りは二次的感情であり、相手の表面的な主張にとらわれず、怒りの奥にある不安等に関心を向け、その感情を受け止め言葉に表して働きかけるようにしています。心構えとして、コンフリクトを恐れない、逃げない、あきらめない、の 3 点を自分に言い聞かせています。

この職は、看護職として長年培った看護経験と知識を活かせ、患者サービスの改善につながる第二の職にふさわしいと思っています。